

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 7月号

1. 子ども食堂に農畜産物引換券を進呈

J A 鳥取中央は6月2日、倉吉市社会福祉協議会において、向井常務から子ども食堂「ほっとここ」の田中代表に、直売所で使える農畜産物引換券を進呈した。引換券は、同協議会を通じて「テラハウス」、子ども料理教室「はばたき人権文化センター」にも贈られる。

子ども達に地元の農産物を食べてもらうことで地元の農業を知り故郷を愛する心を育てることが狙いで、年間を通じて子ども食堂へ引換券の他、旬の食材の提供も行っている。



2. WEBでぶどうトップセールス

J A 鳥取中央は7月5日、大阪中央青果と京都青果合同とテレビ会議をつなぎ、令和3年産J A 鳥取中央ぶどう販売促進WEBトップセールスを行った。

会議では、同日に初販売を迎えた「デラウェア」を初荷と合わせて市場側に送り、産地側と市場側で生育状況の説明と食味を確認した。7月下旬出荷予定の「ピオーネ」と8月下旬出荷予定の「シャインマスカット」については、ほ場の動画を流しながら現在の生育状況を説明した。

同J Aの栗原組合長は「鳥取県の豊かな自然環境と農家の努力により自慢できるぶどうに仕上がっている。食味の良さを消費者に伝えて有利販売に努めてほしい。」と呼び掛け、一方市場からは「デラウェアの酸味の抜け具合や糖度、粒張りなど他産地に負けていない品質の高さをいかして最後まで販売していく。」と意気込みが伝えられた。

令和3年産は「デラウェア」や「ピオーネ」、「シャインマスカット」なども含め全体で約262t、3億4千万円の出荷・販売を目指していく。



3. 6月期 いきいき農業塾を実施！

J A鳥取中央は倉吉市のバイテクセンターで第18期いきいき農業塾を開き、受講生14人が参加した。

同塾はJ A管内の農業基盤の拡充・活性化、家庭菜園者への栽培指導を目的としており、同J A下中営農アドバイザーが、トマト・ナス・ピーマン・カボチャの栽培と管理方法を説明した。タマネギ・ニンニクの保存方法について学習した後に

は、実習としてそれらの収穫も行い塾生それぞれが持ち帰った。塾生は「たくさん採れたので、さっそく学んだ保存法を試してみたい」と笑顔で話した。



4. 「中部発！食のみやこフェスティバルスタンプラリー～今年はお店で食フェス～」抽選会を実施！

食のみやこフェスティバル実行委員会は、「中部発！食のみやこフェスティバルスタンプラリー～今年はお店で食フェス～」の抽選会を開いた。

同会の実行委員長を務めるJ A鳥取中央の栗原組合長と企画運営委員長の妹尾中部総合事務所農林局長が、期間中に届いた約650通のはがきの中から100人の当選者を決定した。

スタンプラリーは5月8日～6月30日まで中部管内の直売所や飲食店などの加盟80店舗で実施し、集めたスタンプに応じて旬のスイカや特産の鳥取和牛、二十世紀などの豪華景品が当たる。

応募者からは「地元の行った事のないお店に行く良いきっかけになった」などの声があった。



以上